

富津市総合教育会議会議録

1 会議の名称	令和6年度第1回富津市総合教育会議
2 開催日時	令和6年7月25日(木) 午前10時から11時10分まで
3 開催場所	市役所4階 401会議室
4 審議等事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT教育の推進について ・ 長欠不登校児童・生徒への対応について
5 出席者名	高橋市長、岡根教育長、池田教育長職務代理者、藤平委員、嶋野委員、今關委員、中山教育部長、樋口教育総務課長、大畑学校教育課主幹、川島教育センター所長兼学校教育課主幹、篠田生涯学習課長、長谷川公民館長、鶴岡教育総務課庶務係長
6 公開又は非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	(理由)
8 傍聴人数	3人 (定員 6人)
9 所管課	教育部教育総務課庶務係 電話 0439-80-1340
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

発 言 者	発 言 内 容
中山部長	<p>ただ今から、令和6年度第1回富津市総合教育会議を始めます。</p> <p>会議の進行につきましては、地方自治法第180条の2の規定により、教育委員会が補助執行することとしていますので、私、中山が務めさせていただきます。よろしく申し上げます。</p> <p>なお、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項の規定により、原則公開となっており、傍聴人は既に入室していただいています。</p> <p>それでは、次第に沿いまして会議を進めてさせていただきます。</p> <p>まず、始めに、市長から御挨拶を申し上げます。</p>
高橋市長	<p>(挨拶)</p>
中山部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に会議録署名人の指名ですが、富津市総合教育会議運営要領第4条第3項の規定により、市長及び会議において指名した委員にお願いすることになりますので、市長は、会議録署名人の指名をお願いいたします。</p>
高橋市長	<p>はい。会議録署名人は、岡根教育長をお願いいたします。</p>
岡根教育長	<p>はい。</p> <p>承知いたしました。</p>
中山部長	<p>それでは早速ですが、議事に入らせていただきます。</p> <p>本日の議題は、「ICT教育の推進について」、「長欠不登校児童・生徒への対応について」としております。</p> <p>議題について、はじめに、「ICT教育の推進について」事務局から説明をお願いします。</p>
川島所長	<p>はい。それでは、お手元の資料に沿って説明させていただきます。</p> <p>(説明)</p> <p>以上です。</p>
中山部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、説明が終わりましたので、協議に入らせていただきます。</p> <p>委員の皆様から、ただいまの議題についてのご質問を含め、お気づきの点やご提案など、ご意見を頂戴したいと思いますがいかがでしょうか。</p>
藤平委員	<p>資料の中にあるプログラミング教育について、講師を招いて学習の機会</p>

<p>中山部長 池田委員</p>	<p>が与えられるというのは、プログラミングを学ぶとても良いきっかけとなると 思います。</p> <p>実施に当たり、計画の中で令和6年の10月から令和8年度にかけてとい うことですが、小学校高学年で、これを体験できないまま卒業してしまう 児童が出ないような組合せを希望します。実際にやったかやらないかとい うことは、子ども達の学習の機会が均等であるべきですので、計画の中で 学ばないまま中学校に進学する児童がでないよう配慮をお願いできたらと 考えます。</p>
<p>川島所長</p>	<p>ありがとうございました。他にございますか。</p> <p>プログラミング教育の教材ツールとしてドローンを活用するとあり、子 ども達にとっては非常に興味を引き起こすツールだと思いますが、一般的 にドローンは使われているのか、また、他にどういったツールがあるのか 教えてください。</p>
<p>池田委員 川島所長 嶋野委員</p>	<p>ドローンは一般的には使われていません。これは小学校5年生の算数の 学習の延長になるのですが、ドローンを自分の思い通りに動かす、例えば まっすぐ1m進む、右に30度回転して何m進といったようなかたちで、六 角形を描いて戻ってくるなど、算数でいう多角形の学習の延長になります。</p> <p>プログラミングを学ぶ場合に、ドローンを飛ばすのではなくて、パソコ ン上でキャラクターを動かし、その軌跡で多角形が作れるといった学習は 一般的ですが、実際にドローンという物体が動くことで子ども達の興味や 関心に繋がると考えています。</p>
<p>池田委員 川島所長 嶋野委員</p>	<p>これまでに実践したことはありますか。</p> <p>3年前に佐貫小で実践したことがあります。</p> <p>G I G Aスクール構想によるI C T教育推進の全体的なことなのです が、I C T教育のメリットとして、児童生徒が動画や音声などを含んだソ フト、今回のドローンを使ったプログラミングもそうですが、今までに無 い授業を受けることができ、興味関心を高めてモチベーションが向上する、 楽しく効果的な学習に繋がる、また、デジタルに強い人材を育てることが でき、教育の質も向上し、良いことだと思いますが、一方でデメリットも あります。書く力の低下、自分で考え粘り強く取り組む力が低下する、シ ステムのトラブルで授業が中断してしまう、費用面の負担が発生すること などです。</p>

<p>中山部長 今關委員</p>	<p>ICT教育が進むことは良いことだとは思いますが、デジタル教材だけに頼るのではなく、従来どおり手を動かして書いたり、頭を使って考えさせたりする授業も多く取り入れて進めてほしいと思います。</p> <p>教員には、システムの操作方法、トラブルの対処方法はもちろんですが、授業の進め方についても十分なスキルを身に付けていただきたいです。</p> <p>システムや機械が人間を育てるのではなく、人が人を育てるのだという気持ちを持って、人間味のある教育を今後もお願いできればと思います。</p> <p>他にご意見がございましたらお願いします。</p> <p>今年度、自分の息子が高校に入学し、ITに関する授業も多くなってきたと聞いています。プログラミングもやっているとのことで、興味はあってもなかなか授業についていくのが大変だと言っています。</p> <p>小学校の時にプログラミング教育が行われるのは良いことだと思いますが、資料では中学校になると技術科の中で行われるとなっています。今回提案のあった授業などにより小学校で生じたプログラミングに対する興味関心が、中学校でも授業で出来るか出来ないかで、その後の興味関心が維持されるか、小さくなってしまうのか、大きな分かれ目となると思いますし、小学校から中学校へ発展していけるような授業が展開されていくと良いと思います。</p>
<p>中山部長 岡根教育長</p>	<p>他にございますか。</p> <p>プログラミング教育というのは、論理的思考力をどう高めるかというのがキーワードとされています。先ほど所長から説明があったように、右に30度、何歩進み、次に左右に何歩進みますといった動きの指示が、しっかりと論理が構成されていると六角形ができるというような、こういう筋書きを立てるとこういう結果が生まれるという思考力を育てる。これがプログラミング教育の1番の狙いです。筋道を立てて論理的思考をしていく力を育てることが算数、数学などに求められている最たるもので、この力を身に付けさせるためにプログラミング教育があるということを国も示していて、決してプログラムそのものを作りましょうということを強くは言っていません。ただ、今回島野さんという方が富津市、地域に所縁がある素晴らしい方で、この方を紹介したら色々な取り組みができるだろうということで、このような話になっています。佐貫小の時はドローンの数が少なかったもので、少人数の学校でまずはやってみようということで実</p>

	<p>施しました。</p> <p>ドローンが動いて、所定の場所で写真を撮って、戻って来るにはどういった指示を出せば良いのか子ども達が考えるのですが、その方法は一辺倒ではなく、色々な方法があるということを知野さんから教わったりして子ども達が体験をする、実体験をすることによって興味関心も増えるし、論理的思考力を養う一貫として、今回全校で実施したいと計画しています。</p>
<p>中山部長 高橋市長</p>	<p>中学校については、まだまだやらなければいけないことが沢山あり、どういった方法が良いか技術科の先生と論議しながら教科の中で取り組んでいくことが必要であると感じています。</p> <p>他にございませんでしょうか。</p> <p>基本的なこととして、プログラミング教育は小学校では教科として位置付けられておらず、中学校では技術科の中で実施しているとのことですが、これは全国で同様に技術科の教科として実施しているのですか。</p>
<p>川島所長</p>	<p>はい。技術科としては必ず、それ以外の授業でも内容に応じて実施しましょうということをやっています。</p> <p>小学校でも各教科の中で活用できる場面で実施していきましょうと言っていますが、なかなか進んでいない状況です。</p>
<p>高橋市長</p>	<p>プログラミング教育の目的に、将来の目標設定のきっかけづくりになるということが示されています。嶋野委員からお話のあったように、私は広い視野の中で、プログラミングに対してアレルギーにならないよう、授業の中で興味を持ってもらうきっかけになると良いと思います。</p> <p>子どもたちを取り巻く環境は驚くべきスピードで進んでいて、もしかしたらこの技術は大人になってまでというものではないのかもしれませんが、その時々でアレルギーを感じずに、富津で育った子たちが色々と自分の活躍の場を見つけられるようなきっかけとなるといいと思いました。</p> <p>公民館での教室や、ドローン体験など、知野さんの色々な取り組みを私も見っていますが、子ども達にとってはとても興味深い内容なのだと思いますので、期待をしています。よろしくお願いします。</p>
<p>中山部長 岡根教育長</p>	<p>他にいかがでしょうか。</p> <p>藤平委員からご意見のありました体験しない子どもが出ないようにということについては、予算関係も含めてなかなか難しい部分もあるのですが、幅広く検討していかなければならない大きな懸案だと思いますので、多く</p>

<p>中山部長</p>	<p>の子ども達が体験できるようにしていきたいと思います。</p> <p>特に大きな学校では、どのくらい子ども達がドローン体験できるのかというと、一人一人というよりはグループでといったことになってしまうかもしれませんが、不公平感の無いように検討して取り組んでいきたいと思います。</p> <p>他にございませんでしょうか。</p> <p>無いようですので、次に「長欠不登校児童・生徒への対応について」事務局から説明をお願いします。</p>
<p>川島所長</p>	<p>はい。それでは、お手元の資料に沿って説明させていただきます。</p> <p>(説明)</p>
<p>中山部長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>只今、現状や具体的な状況に応じた対策、成果と課題について説明がありましたので、活発なご議論をいただければと思います。</p> <p>よろしくをお願いします。</p>
<p>藤平委員</p>	<p>長欠不登校の現状について、総数で示されていますが、具体的に学年、小・中といった児童生徒の発達段階によって長欠不登校の傾向が現れる学年や年齢があるのか、総数だけだとわかりにくいので、具体的に富津市はどのような傾向があるのかを知りたいのと、令和3年から5年の3か年の数値ですが、コロナ禍になってからの数値だと思いますが、それ以前の令和元年前後の長欠不登校の状況はどうだったのか、その時点でも同様に長欠不登校が増えてきていたのかといった変容を知りたいです。</p>
<p>川島所長</p>	<p>学年の傾向としては、以前ですと小学校高学年や中学校がメインでしたが、小学校低学年も増えてきていますので、現状ではどの学年が多い少ないといったことに関しては、大きな差はありません。</p> <p>また、コロナ禍前の令和元年頃と比べると小学校、中学校ともに増えています。小学校の長欠は令和元年には16名、中学校は31名で、それ以前も多少増減はありますが大体同じくらいの推移です。</p>
<p>藤平委員</p>	<p>コロナの影響も長欠不登校増加の要因の一つということですね。</p> <p>先程、学年差はあまり無く、低学年も増えているとお話でしたが、中1ギャップなどについては、今まで富津市としてはあまり課題になっていなかったけれども、今の段階ではそういったものも出てきているということも考えられるのでしょうか。原因、背景となる要因は一つではなく様々</p>

岡根教育長

だと思いますが、学年であったり発達段階であったり、例えば1年生も多
くて2年生3年生も多ければ増加傾向にあるとか、先が読めますし、低学
年では多くなくて、中学年で増えるのであれば、いったいその学年で何が
あったのかといった対策を練ることができるので、その辺りをもう少し具
体的に知ることができれば、その後にお示しいただいた方針や対策といっ
た部分について、より一層共に考えることができると思いました。

低学年は増えてはいるけれども、極端に前後の学年も平均的に長欠率が
高いということではないですよね。学年が変わった時に長欠になる子ども
はいます。低学年の子どもが増えているのは、おそらく学校という選択肢
ではなくても良いのではないかという風潮が生じていて、さわやか教室に
通っている子ども達の保護者の意見を聴くと、学校以外にそういうところ
があるならそこに通わせたいという声もあって、今日学校に行きたくない
と子どもが言った時に、行かなくてもいいという保護者と、引っ叩いてで
も行かせた方がいいという保護者と、どちらが正しいのかというところで、
好き嫌いのような形で子ども達の様子を許容する状況が少しずつ社会の中
に生じているというのが低学年の子ども達の中にある問題で、県の課長に
聞いた話では、学習で躓いてしまう、指されたら恥ずかしいだとか、そう
いったことから段々と抵抗感を持って学校に来なくなってしまう子もいる
ということで、県で長欠の子ども達の声を聴く趣旨のアンケートをした結
果、先生方が捉えている要因と、子ども達の言う要因に乖離があるという
話がありました。つまり、先生方は、この子は無気力だとか学校に行くとい
う感覚が難しいといった評価を捉えている一方で、実際に子ども達は先
生との人間関係が悪くなって行けなくなりましたとか、友達関係で嫌な思
いをして行けなくなりましたという声が大きくなっているというのも聞き
ました。現実的な捉え方をすれば、学習についていけない子ども達がいる
一方で、人間関係の中で行きたくなくなってしまう子ども達も出てきてい
るのも事実で、その辺りの問題となってくると、この学
年の時に何が起こったのかというところを見ていかないと対策は難しいと
思います。要因は一つではなく、色々なことが重なりあっている中で、学
校には行けませんという子ども達が出てきているというのは事実で、寄り
添って話を聴きながら鎖を解いていく取り組みが求められていると感じて
います。

<p>今關委員</p>	<p>長欠不登校は増えてきていると思います。</p> <p>資料を拝見し、100 日以上の長欠割合が上がっていることに驚いていますが、知り合いの長欠の生徒などもそうなのですが、高等部に進学してから学校に通えるようになったという子も結構いて、環境が変わるということや、本人を取り巻く人間関係が変わるということが一つのきっかけにもなると、何が原因だったかわかりませんがそういったことも一つのきっかけになるのだと感じています。</p> <p>各取り組みはどれを良しとするのか、子どもにもよると思うし、保護者の方の気持ちにもよるのかなと思っています。</p>
<p>岡根教育長</p>	<p>国では、学校に通わせるという方向での適応指導というのは望んでいなくて、子ども達一人一人が自立できるような支援をしてもらいたいという意見が変わってきています。適応指導教室という名称についても、支援センターという名称に変えるというところまで国のほうで踏み込んできています。</p> <p>家から出ることができない児童生徒に対してどのように関わりを持ち、その子が自立できるようにどんな取り組みをしていくのかというのが求められていて、学校に通ってくれば一番良いのかもしれませんが、それを目的とするのではないという方向に舵を切っています。どちらにしても、子ども達との関わりの中でそういう支援ができるような取り組みを少しずつ進めていく必要があると思っています。</p>
<p>今關委員</p>	<p>確かにそのとおりだと思います。私自身親の立場で、例えば自分の子どもが長欠になった場合にどんな対応をするのか考えた時、きっと私なら行かなくていいと言うと思います。学校に行くことだけが正解でもないし、間違いでもないと思いますし、この問題はとても難しいものだと考えています。</p>
<p>岡根教育長</p>	<p>今は自立をさせるためにはどのような支援をするべきかで、学校に行かせることを狙うものではないという捉え方をしているので、今關委員のおっしゃるように、子ども達はこれから長く社会の中で生きていくわけですから、その中でどうやって生活をして成長していくのか、社会人となって自立できるようにしていくためにどういった支援をしていくのか皆で考えていくべきで、そのためにどういったアプローチをしていくのかが大きな課題であると捉え、進めていく必要があると思います。</p>

<p>鳴野委員</p>	<p>長欠不登校の中でも、家から出ることができない児童生徒への対応が難しいのだとお察しします。</p> <p>私の考える不登校の原因は、先生やクラスの友達と合わないだとか、いじめ、人間不信、家庭問題など様々だと思いますが、いずれも無理に学校に行かせたりするのは良くないと思いますので、専門のカウンセラーに任せるのが良いと思います。</p> <p>私が懸念しているのは、その子が学校だけではなくて、家から一步も出なくなってしまう引きこもり状態になって孤立してしまうということで、勉強はオンライン学習でも出来ますし、たとえ勉強は出来なくても社会に出て生活することは出来ると思いますが、人間は一人で生きて、生活していくことは出来ません。勉強以外でその子の好きなスポーツのクラブであるとか、趣味に合った教室に通わせることなどを勧めていければ良いと思います。外部機関と連携を図り、学校以外でのコミュニティを持つことが私は大切だと思います。その結果として得意なことが見つかれば、それを活かして、自分らしく楽しく生きていける可能性が生まれるのではないのでしょうか。現在不登校の子どもにも必ず輝ける環境、場所があると思いますので、まず家から出ることを勧め、教育委員会、学校側でも支援をしていくことが大切だと感じます。</p>
<p>池田委員</p>	<p>今は民間でも不登校の生徒の受け皿が出て来ていますが、そういった外部機関と学校との連携はどのようになっているのでしょうか。</p>
<p>川島所長</p>	<p>色々な機関がありますので、学校がそういった機関に直接相談することもありますし、教育委員会が間に入って繋げることもあります。</p> <p>誰がどんな手を差し伸べたらその子の自立に向かったステップになるかを皆で考えましょうということで、学校でそれぞれの機関の方が集まって相談するようなサポートチーム会議のようなことも実施しています。</p> <p>色々なパイプを使いながら外と繋がるということを進めています。</p>
<p>池田委員 藤平委員</p>	<p>連携が全く無いのではなく、そういった協同の場を設けているのですね。</p> <p>この問題は早期改善を目指すのではなく、それぞれの状況に応じた対応をしていくということは十分理解をしているつもりでして、目指すところは子ども達の将来の自立に向けた支援であると思うのですが、具体的な対策、方針として、自立支援指導員を増やしていく、相談員の数を増やしたほうが良いということが記載してありますが、配置されていることによっ</p>

<p>高橋市長</p>	<p>てどのような成果が表れたのか、もちろん簡単には表せないと思いますが、ただ人を増やしていくだけで良いのかという疑問もあります。人を増やすことがどんな成果に繋がっていくのか、サイクルで結果を見ながら改善していくようなプランがあるといいと思いました。</p> <p>皆様のご意見を伺って改めて難しい問題だと感じましたし、私達が学校に通っていた時の普通というのが現在の普通なのかどうかということも、また、普通であることが必要であるかどうかということまで考えなければならぬのだと感じました。</p> <p>自立支援指導員の配置等について、効果があるとしたときに、満足な配置が出来ていないとすれば、それは行政としては反省するところだと感じています。</p> <p>学校の組織としての質問ですが、教育委員会の努力によって本来であれば複式学級になってしまうクラスにおいて、加配の先生の配置によって複式にしていないというところがあります。これは小規模校にのみ、こういった加配の先生が配置されるのですか。どの学校にもそういった先生がいらっしゃるのでしょうか。</p>
<p>岡根教育長</p>	<p>学級定数に応じて加配が入っていますので、基本的には学級数＋何人という形で決まっています。小学校で11学級以下ですと1名加配されます。</p> <p>複式学級が1クラスできると、2つの学級を1人の先生が受け持つので、そこに加配の先生が入ればクラスを分けることができます。</p> <p>複式学級の有無によらず11学級以下では1人加配が付きます。</p> <p>現在の制度の中で、複式学級がある学校には加配をもっと入れましょうというのが県の方針で、複式学級解消のためにもう1人加配が可能になるような動きが出て来ている状況です。</p>
<p>高橋市長</p>	<p>そういった場合に、先生方が非常に多忙だとは承知しているので、単に数字合わせになってしまうかもしれませんが、もし大きな学校にもそういった加配の先生がいて、自立支援指導員の確保が難しいという話もございますので、加配の先生の力も借りることができれば、現状よりも体制が強化されるのではないのでしょうか。</p>
<p>岡根教育長</p>	<p>小学校の加配の先生は既に業務が一杯ですので、自立支援指導員の配置されていない学校において、代わってサポートするのは難しいと思います。</p> <p>中学校の場合は加配の先生が多く居ますので、校内での自立支援教室な</p>

<p>高橋市長</p>	<p>どへの従事も可能です。</p> <p>ただし、加配するにあたって授業の受持ち時間など縛りも少なくないので、全くフリーで自由に動ける時間を多く確保するのはなかなかハードルが高いです。複式学級が無い学校で加配の先生に自立支援指導員のいない学校やいない時間にサポートしてもらうことは分掌の中で可能な範囲でやってみよう命ずればできますが、それなりの仕事量を抱えている事実もあります。</p> <p>是非学校を一つのチームとして可能な限り協力をしていただいて、それで少しでも環境が良くなるのであれば、学校としても努力をお願いしたいです。そして努力を重ねた上で、まだまだ不足しているということに関しては私どもも真剣に協議をさせていただき、真に必要な人数、体制が一日でも早く実現できればと感じました。</p>
<p>岡根教育長</p>	<p>家から出られない子は、学校というものに対して様々な思いがあって、学校の仮面を被って入っていかうとしても、おそらく入っていけない子供が多いと思っています。学級担任が最初は話し込んでいくのですが、それでも難しい状況の場合、保護者とその子に対する自立支援を純粹にアプローチできる、授業云々という話ではなく、子ども達と共感的な理解が出来て、保護者の悩みも聞けるような人が入っていくのが第一歩で、そういう人材として自立支援指導員というのは、学校の先生という立場ではなく家庭に入っていく、子どもと話し込んでいって、学校には行けるけど教室には入れない子ども達も、この先生がいる時は学校に行けますといった心を開いている部分があって、本当は学校の先生もそれが出来なければいけないのですが、そういうイメージは子ども達にもあって、会えないとか会わないといった話があるので、どういう人達が関わったらいいいのかというのは課題として思うところです。</p>
<p>中山部長</p>	<p>他にございますか。</p> <p>無いようですので、4その他に入ります。</p> <p>本日意見交換をしました議題に関する事以外について、委員の皆様からご意見や、取り上げたいテーマなどございますでしょうか。</p>
<p>池田委員</p>	<p>今、市内に地域おこし協力隊がいて、観光分野と水産分野でご活躍されていると思いますが、今後、教育分野でも地域おこし協力隊の活用を考えてはどうかと思っております、教育のテーマには大切なものが色々とお</p>

	<p>りますが、子ども達にふるさとの愛着をどう持ってもらうのか、郷土愛を育むというテーマは非常に大事であると思っております。もちろんそれは学校教育の中で取り組むべきものではあると思うのですが、現実的に学校のカリキュラムや先生方のご負担を考えると難しい部分もあると思うのでアウトソーシングという方法も検討して良いのではと思いました。</p>
高橋市長	<p>郷土愛ですので、郷土の学習はもちろんのこと、愛という心の部分をどう育むかが大切で、腰を据えてやるための専門的に取り組む人材がいてもいいと思っております。そう考えた時に、地域おこし協力隊を教育分野にも採用する考えを選択肢の中に入れていただけたらと思えました。</p> <p>私も子ども達に郷土愛を持ってもらうのは次世代に向けてとても大切だと思っております。</p> <p>地域おこし協力隊は制度として3年間という制限があり、市内で起業等をして生活してもらうことを目的に雇用するというもので、どのように教育現場に入ってもらうのか、また、そういった人材をどのように確保していくかなど、研究をさせていただきたいと思っております。</p> <p>雇用の次のステップとして、自立をして仕事をしていくのが難しいのかもしれないのですが、可能性があるのであれば研究をしたり、先進事例を調査して、そういった方がいるのであれば、地域おこし協力隊は国の支援も大きく、地域にとって有利な制度でもありますので、しっかりとその辺は調べていきたいと思っております。</p>
中山部長	<p>他にございませんでしょうか。</p> <p>それでは本日の議題は終了しましたので、令和6年度第1回富津市総合教育会議を終了します。</p> <p>本日、頂戴したご意見等につきましては、今後、十分留意して、取り組んでまいりたいと思っております。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>